

「黒滝村総合戦略」平成30年度進捗状況の効果検証結果について

・効果検証会議開催日

日 時	令和元年9月18日（水） 13:30～15:00
場 所	黒滝村役場 2階会議室
出席委員	外部有識者9名

※黒滝村議会への効果検証結果の報告は令和元年12月11日に実施しています。

・黒滝村総合戦略 平成30年度末基本目標別事業進捗率 集計表

	事業数	事業進捗率 自己評価			効果検証会議評価		
		100～ 90% A	89～ 50% B	50%未 満 C	A	B	C
基本目標1 働きたくなる村づくり	12	7	3	2	7	3	2
基本目標2 住みよい村づくり	45	28	13	4	28	13	4
基本目標3 訪れたくなる村づくり	11	7	—	4	7	—	4
地方創生交付金事業	6	4	1	1	4	1	1
合 計	74	46 (62%)	17 (23%)	11 (15%)	46 (62%)	17 (23%)	11 (15%)

(別表の効果検証シートと併せて重要事業評価指標 (KPI) の達成状況を公表します)

※計画期間の1年間延伸

総合戦略の基本的な姿勢・基本目標・具体的な施策の全てを維持した上で、計画の期間のみ「平成27年度から平成31年度までの5年間」を「平成27年度から令和2年度までの6年間」、「目標値 (平成31年度)」を「目標値 (令和2年度)」に修正し、数値の設定を行います。

※重要事業評価指標（KPI）の自己評価について

①目安値（平成30年度当初）に対する実績値（平成30年度末）の進捗率により検証。

$$\text{進捗率} = \frac{\text{実績値}}{\text{目安値}} \times 100 (\%)$$

(例)
平成27年度現状値 8人
↓
30年度実績値 10人
目標値 13人
進捗率 76.9%
↓
平成31年度目標値 13人

※実績値は基準値（平成27年度）からの累計値（平成30年度末）です。

※進捗率は平成30年度の目安値による分と、目標値（令和2年度）による全体分を記載。

②「目安値」は各事業の平成30年度の目標値（平成30年度予算要求時または事業着手時に設定する目標値）を記入。特にない場合は、基準値（平成27年度）→目標値（平成31年度）に対して、毎年度一定の割合（5カ年計画であれば1/5ずつ）で上昇（減少）していくものとして算定した数値を記入。

※設定数値により横ばいの場合もあります。

③自己評価は実績値と目安値または進捗率との差分を以下の基準により判断し、コメント（実績値を踏まえた事業の今後について）記入（前回記入分の修正）しています。

・評価の視点：施策は効果を得ることができているか。

長期的な効果が見込めるか。

事業の進め方、事業内容、実施主体は適切か。

・評価

A 目標達成（高い効果が得られた、進捗率90%以上）

B 目標どおり（一定の効果が得られた、進捗率50%～90%以上）

C 目標を下回る（効果は不十分もしくは見られなかった、進捗率50%以下）

※参考 黒滝村総合戦略【抜粋】

第3節 総合戦略にあたっての基本的な姿勢

総合戦略の推進にあたっては次の5点を基本的な姿勢とします。

③明確な「重要業績評価指標（KPI）」を設定、PDCAサイクルによる効果検証と改善

※KPI（key performance Indicatorの略）

総合戦略においては、可能な限り定量的なアウトカム指標を施策の目標として設定します。また、重要業績評価指標（KPI）の達成状況を毎年チェックし、次年度の施策立案、予算編成、事業執行に的確に反映させていきます。

①黒滝村総合戦略(平成30年度進捗分)効果検証シート

節項番号	具体的施策	施策概要	重要事業評価指標(KPI)	基準値		H30実績値	H30目安値	H30進捗率(実績値/目安値)	全体の進捗率(実績値/R02目標値)	自己評価(ABC)	H31(R01)目標値	R02目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前質疑	評価A B C	評価に至った意見
				年度	数値										質疑内容		
1-1-1	林業労働力の確保・育成	林業への就業を希望する求職者に対し、本格的な就業、地域定着を目的として、森林整備の担い手を確保・組織化して必要な専門的技術・技術を習得させる実地研修等を実施します。	山活隊(やまいきたい)雇用者数	H27	8人	11人	11人	100%	79%	A	12人	14人	任期終了後の受け入れ先となる村内の認定事業体(3社)とヒアリングを行い募集方法・受入可能人数を決定。(別紙)経験者及び林業関係有資格者であることの希望、面接重視で募集を行っています。昨年度末に1名途中退職については、家庭の事情急変に伴うものであることから、今後は採用面接において継続的に仕事が続けられるかの聞き取りも行います。	林業建設課	①全体の進捗率92%の計算は正しいでしょうか。 ②山活隊の募集に関し昨年の検証会議で募集方法の見直しを行っています。この見直しにもなお早期退職が発生しているとなれば募集方法とは違った問題を検証する必要はないでしょうか。 ③将来的な見直しを基にした定員とはどの様な事ですか。 ④31年の目標値は13人に修正では。	A	
			林業に関する情報を発信した映像本数	H27	1本	6本	4本	100%	100%	A	6本	6本		移住定住と連携し、観光プロモーションも合わせ、できるだけ安価で情報発信が容易な映像制作を今後も進めます。(美しき日本1、(株)飛騨産業1、こまどりケーブル(株)1、地域おこし協力隊制作1、樽丸紹介1、吉野地域日本遺産協議会1)		林業建設課	
1-1-2	生産性の高い林業の推進と山村の振興	作業現場への巡回指導・救助訓練、振動障害予防対策の促進、伐倒条件の相違に対応した伐木作業技術の現地研修会等についての事業を実施し、労働災害を防止するための最新の技術等を取り入れた機械・器具等を装備し、万全の安全対策を講じます。	林野1ha当たり林道延長(m)	H25	4.994m	5.004m	5.004m	100%	98%	A	5.062m	5.088m	林道総延長(23,116m(H30))/林野総面積(4,620ha)により積算しています。H31の延長予定は270m、R02の延長予定120mとなっています。(H30は136.8m延伸)今年度は林道吉野山鳥住線、林道吉野大峯線、林道御吉野谷支線において工事実施予定です。なお、林業担い手育成強化事業(年4,200千円)により森林組合作業班の福利厚生研修助成事業を実施しています。	林業建設課	①林道延長数は物理的に可能な数値ですか。 ②担当課コメントで、全般として進捗の表現ですので課題等を盛り込んだ形の事業継続コメントにされてはどうでしょうか。	A	
1-2-1	農業の振興	自立経営の確立を目指し、地区ごとの実情や村の地形的条件にあわせた強くたくましい農業づくりを進めます。	農業への新規従事者数	H27	0人	5人	3人	100%	83%	B	6人	6人	農業委員会を中心として農地の利用状況管理を強化し、遊休農地の新たな担い手への斡旋や農地の集積を図ることを目的に農地台帳のシステム化と農地利用最適化のための体制を構築します。貴重な担い手として新規従事者が継続して農業に従事できるようバックアップを図りながら、自立経営が可能な農業者の育成を目指します。また、H31より特産農林産物出荷奨励補助金を新設し販売手数料の補助を行っています。	企画政策課	担当課コメントで、全般として進捗の表現ですので課題等を盛り込んだ形の事業継続コメントにされてはどうでしょうか。	B	
1-2-2	商工業の振興	吉野杉透かし彫りや杉の葉染め、水組み工芸品、木材加工品等、村産材を利用した木工商品の新たな開発、商品の販路拡大を支援すると共に、移住定住を希望する者等への就業の場の確保に取り組みます。	地域おこし協力隊員数	H27	0人	2人	3人	67%	67%	B	3人	3人 延べ6人	H31に2名が任期満了となるため、新たに3名を募集します。(観光・情報発信+農業で現在2名を新規雇用済、六次産業1名を募集中)家庭の事情急変に伴う途中退職や産休による休職などが発生しているため、今後は採用面接において継続的に仕事が続けられるかの聞き取りも行います。なお、任期満了後、習得した経験を活かして関係先での雇用や起業に結びつくように支援を図ります。	企画政策課	担当課コメントで、全般として進捗の表現ですので課題等を盛り込んだ形の事業継続コメントにされてはどうでしょうか。	B	
			新たな商品開発件数	H27	0件	1件	1件	100%	50%	A	1件	2件		木の玉1個売りを開発。東京ときのもりブレ、カフエくるみの木等での販売を今後も継続します。物産展等で新商品のテスト販売を積極的に実施し、テスト結果を事業者にてフィードバックするなど支援を進めます。		企画政策課	

①黒滝村総合戦略(平成30年度進捗分)効果検証シート

節項番号	具体的施策	施策概要	重要事業評価指標(KPI)	基準値		H30実績値	H30目安値	H30進捗率(実績値/目安値)	全体の進捗率(実績値/R02目標値)	自己評価(ABC)	H31(R01)目標値	R02目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前質疑	評価A B C	評価に至った意見
				年度	数値										質疑内容		
1-2-3	シニア世代保有技術の活用・就労支援	高齢者の保有する知識や経験を地域貢献に活かすとともに、人口の半数を占めるシニアが健康で生きがいのある生活を送り続ける支援を行います。	特産加工品奨励数	H27	1品目	4品目	4品目	100%	57%	A	6品目	7品目	食の6次産業化プロジェクトチームが白きゅうり漬物・ひね漬け・びくるす・ベジッキーを開発し販売中。今後も新商品の開発と販路開拓を継続します。	企画政策課		A	
1-2-4	6次産業の充実強化	農山村における所得の向上、収益性の改善、雇用の確保に結びつけ、農林業の発展と農山村の活性化を推進し、商品開発戦略、価格戦略、販売戦略とマーケティングの一貫した戦略活動を展開します。	特産品加工所の整備箇所数	H27	0カ所	1カ所	1カ所	100%	100%	A	1カ所	1カ所	H30年度に加工所施設の更なる充実と機器整備が完了しました。今後は施設を活用して商品開発・低価格化・販売強化につなげます。	企画政策課		A	
1-2-5	起業家への支援の充実	村内に存在する資源等を活用し、新規に事業を起こす人に対し支援を行うことにより、就労の機会を整備します。	新規起業家数	H27	0人	0人	0人	0%	0%	C	1人	3人	起業支援補助金制度及び移住支援金制度を整備し、卒業した地域おこし協力隊員の村内定住の促進、首都圏等からの移住促進及び事業継承の促進を含め起業支援を行います。今年度1件の交付決定(事業継承)済み。農業部門で地域おこし協力隊任期満了後の起業支援と、木材利用部門で任期満了後の起業支援を予定しています。	企画政策課		C	
			起業支援件数	H27	0件	0件	0件	0%	0%	C	1件	3件		企画政策課		C	
1-2-6	女性の視点を活かした事業の推進	生産性の向上と販売手法により発展性が見込まれる事業について、現在の市場のニーズの把握や新たな販売促進を提案し、販路開拓等、新たな事業を推進します	販売促進提案件数	H27	0件	2件	4件	50%	40%	B	5件	5件	事業を推進する担い手不足の状況にあることから、今後、女子職員会と連携し、女性の視点からの提案等を行います。なお、脱マンネリ化を図るため女性事業者とも連携を深めます。	企画政策課	担当課コメントで、全般として進捗の表現ですので課題等を盛り込んだ形の事業継続コメントにされてはどうか。	B	
			販路開拓を行う取り組み支援件数	H27	0件	2件	2件	100%	67%	A	3件	3件		企画政策課		A	
2-1-1	教育の経済的負担の軽減	保護者の負担を考慮し、教育に必要な経済的支援の充実を図り、就学・学習機会の均等を確保します。また、村外で通学の拠点を検討します。	高等学校等自宅通学補助対象者数	H27	9人	4人	6人	67%	80%	B	4人	5人	少子化等により対象者が減少しており、目標値の修正を行います。	教育委員会		B	
			修学奨励金貸与者数	H27	0人	0人	2人	0%	0%	C	2人	2人	今年度1名貸与決定済み。今後も周知徹底を図り、継続実施し、返済方法の多様化や対象者要件の緩和を今後検討します。	教育委員会		C	
2-1-2	健やかな成長の支援	木で遊び、楽しさや喜びを実感し、それが私たちの暮らしを支える地域や社会、産業への関心へとつながるような人づくりに努めます。	木製おもちゃで遊ぶ子ども園の乳幼児	H27	1人	5人	5人	100%	-	A	子ども園の乳幼児数	子ども園の乳幼児数	子ども園入園者へ入園祝いとして木製おもちゃの贈呈と木製遊具や木製おもちゃの買い換え整備を継続します。	教育委員会・保健福祉課		A	
2-1-3	子どもを産み育てるサポート体制の充実	子どもと親の健康保持増進をめざした取組に努めます。	母子保健指導開催数	H27	4回	年4回	年4回	100%	100%	A	年4回	年4回	内容の充実を図りながら、今後も事業を継続実施します。	保健福祉課		A	
2-1-4	子育て世帯への支援の充実	地域の子育て支援の充実をめざして、子育て支援の人材確保や資質向上をめざした取組に努めます。	幼稚園児・保育園児以外の子ども園利用者数	H26	延363件	延98件	延132件	74%	98%	B	延100件	延100件	昨年度より少子化や一時利用から通園者への移行者増加に伴い延べ利用者数は減少しています。(別紙)全ての利用申請に対応可能な体制を整備済みで、一時預かりの柔軟な対応や、研修等を通じて職員のスキルアップを図り職員への対応力の向上に努め、募集PRを行います。	教育委員会・保健福祉課	R02の目標値はかなり大きい様ですが、コメントに件数アップに向けた文言は必要ないでしょうか。	B	

①黒滝村総合戦略(平成30年度進捗分)効果検証シート

節項番号	具体的施策	施策概要	重要事業評価指標(KPI)	基準値		H30実績値	H30目安値	H30進捗率(実績値/目安値)	全体の進捗率(実績値/R02目標値)	自己評価(ABC)	H31(R01)目標値	R02目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前質疑	評価A B C	評価に至った意見
				年度	数値										質疑内容		
			研修参加時の代替職員の確保	H27	2人	2人	2人	100%	66%	A	3人	3人	継続実施に努めます。	教育委員会・保健福祉課		A	
2-2-1	こども園の充実	豊かな感性と人を思いやれる優しさ、我慢強くがんばれる強い心をもった子どもの育成を目指します。	在園幼児数	H27	8人	12人	12人	100%	100%	A	8人	10人	出生者数の減少に伴い目標値が減っていますが、入園者の確保に努めます。	教育委員会・保健福祉課		A	
2-2-2	放課後対策の推進	地域の特性に鑑み、放課後も児童が生き生きと活動できる安全・安心な場の確保をします。	放課後児童クラブの一時預り利用者数	H27	5人	平均3人/月	平均3人/月	100%	60%	A	5人	平均5人/月	全ての利用申請に対応可能な体制を整備済みです。利用者数は減少していますが、児童に合わせたきめ細かな対応を行い、対応力の向上に努めます。	教育委員会・保健福祉課		A	
2-3-1	学びあい生きがいの持てる地域社会の構築	村民の自主的な学習や交流の機会を提供し、誰もが学習できる環境整備に努めます。	生涯学習団体数	H27	2団体	2団体	2団体	100%	67%	A	3団体	3団体	公民館教室修了後も、自主継続できるように環境整備に努めます。	教育委員会		A	
			教室参加者数	H26	213人	295人	263人	100%	98%	A	300人	300人	多世代で参加しやすい教室づくりに努めます。	教育委員会		A	
			文化祭出品者数	H27	45人	50人	51人	98%	91%	A	50人	55人	自主学習や多世代交流の機会として、充実発展を図ります。	教育委員会		A	
2-4-1	健康寿命の延伸をめざして、健康的な生活習慣の普及や疾病の早期発見	診療所と連携したたばこ対策及び減塩や野菜摂取促進、がん検診の普及啓発や受診率向上にむけた取組に努めます。	健康寿命(平均自立期間)	H24	男15.56年 女24.36年	(H28)男24.38年 女19.99年	男17年 女25年	男100% 女79.9%	—	男A 女B	延伸	延伸	施策に加え、女性の健康寿命延伸のため、健康教室の受講勧奨を積極的に行います。	保健福祉課		男A 女B	
2-4-2	特定健診や介護予防などに取り組む人を増やすことによる要介護状態になる人の減少	データヘルス計画の策定や特定健診受診率の向上の取組、特定保健指導の実施に努めます。また、介護予防と連携した歯科口腔保健の取組に努めます。	特定健診受診率	H26	36.4%	31.7%	60%	53%	53%	B	60.0%	60.0%	受診率向上のため、電話や訪問による受診勧奨を積極的に行い、目標値達成を目指します。	保健福祉課		B	
			特定保健指導利用率	H26	63.6%	33.0%	60%	55%	55%	B	60.0%	60.0%	対象者3人の内全3回の指導が終了しているのが1人。残り2人の指導継続に努めます。	保健福祉課		B	
2-5-1	医療の確保と充実	緊急時や専門的・高度な医療を要する場合に適切に対応できるような体制の整備を図ります。	医療情報ネットワークに参加する医療機関数	H27	1医療機関	4医療機関	4医療機関	100%	100%	A	4医療機関	4医療機関	継続実施に努めます。	保健福祉課		A	
			歯科医師数	H27	1人	1人	1人	100%	100%	A	1人	1人	継続実施に努めます。	保健福祉課		A	
			へき地巡回診療の年間利用回数	H27	1回	1回	1回	100%	100%	A	1回	1回	継続実施に努めます。	保健福祉課		A	
2-5-2	在宅医療の充実	在宅生活を継続できる体制づくりを図ります。	訪問看護における医療支援件数	H27	4回	3.25回	4回	81%	81%	B	延伸	4回	継続実施に努めます。	保健福祉課		B	

①黒滝村総合戦略(平成30年度進捗分)効果検証シート

節項番号	具体的施策	施策概要	重要事業評価指標(KPI)	基準値		H30実績値	H30目安値	H30進捗率(実績値/目安値)	全体の進捗率(実績値/R02目標値)	自己評価(ABC)	H31(R01)目標値	R02目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前質疑	評価A B C	評価に至った意見
				年度	数値										質疑内容		
2-6-1	地域福祉の充実	地域で支えあう意識を高め、自助・共助・公助による福祉活動を推進していくため、集いや相談の機能を旨とした自主グループ活動の推進及び担い手の確保や育成にむけ関係機関との連携に努めます。	住民運営の場の自主グループ	H26	1グループ	5グループ	6グループ	83%	71%	B	6グループ	7グループ	未実施の地区への必要性を呼びかけ、既存地域へは継続支援に努めます。	保健福祉課		B	
			ポイント手帳利用者	H27	58人	103人	120人	86%	75%	B	137人	137人	周知、啓発を強化し、目標値達成を目指します。	保健福祉課		B	
			連携会議の開催	H27	0回	12回	12回	100%	100%	A	年2回	年12回	毎月の定例会での課題の分析、解決に向けた取り組みに努めます。	保健福祉課		A	
2-6-2	障害者支援の充実	生活のしづらさの支援にむけて、相談の機会の充実をはかります。	相談支援利用者	H26	17人	10人	10人	100%	40%	A	25人	25人	H26は希望者のみ家庭訪問を実施しましたが、その後、継続した利用者が少なかったため、今後も制度の周知を続け、相談対応可能な体制を整えます。	保健福祉課		A	
2-6-3	高齢者支援の充実	高齢者が暮らしやすいむらづくりを目指して、移動手段の充実、医療・介護連携の推進、認知症の人と家族にやさしい地域づくりの推進、地域包括ケアシステムの構築にむけた取組に努めます。	黒滝村総人口に占める認知症サポーターの割合	H27	0%	12.90%	13%	99%	65%	A	15人 116人	20%	認知症サポーター養成講習会の実施を通じてサポーターの割合向上に努めます。	保健福祉課		A	
			地域ケア会議	H26	0回	5回	6回	83%	83%	B	6回	6回	地域包括支援センター、保健師、介護保険担当者によりH30.6より開催、1回/2ヶ月。情報共有に有意義であり継続実施に努めます。	保健福祉課		B	
2-7-1	生涯スポーツの推進	村民がいつでも誰もが気軽にスポーツやレクリエーションに親しむ環境整備を行います。	生涯スポーツ事業参加者数	H26	280人	378人	381人	99%	95%	A	350人	400人	多世代で参加しやすい環境づくりに努めます。	教育委員会		A	
			生涯スポーツ団体数	H27	4団体	4団体	4団体	100%	80%	A	5団体	5団体	新たなスポーツに取り組む機会を増やし、自主継続につながる環境づくりに努めます。	教育委員会		A	
2-8-1	防災体制・設備の強化	避難のあり方や避難所の整備、自主防災組織の育成、孤立集落対策、土砂災害防止対策などを総合的に進め、各個人の平時からの備えにつながるような施策を推進します。	消防団員数	H27	123人	120人	125人	96%	92%	A	130人	130人	減少傾向にあり、現状の団員数維持に努めます。	総務課		A	
			自主防災組織数	H27	12団体	12団体	12団体	100%	100%	A	12団体	12団体	避難訓練などの住民参加や防災啓発を通じて、防災意識を高めていきます。	総務課		A	
			防災Wi-Fi設置数	H27	0基	5基	5基	100%	63%	A	8基	8基	保守経費の関係上、費用対効果を検討の結果、現状数維持に努めます。	総務課		A	
2-8-2	災害防止対策の推進	住民に対する災害危険箇所の周知啓発や防災情報の普及啓発等のソフト対策を推進します。	災害への高い危機意識を持っている人の割合	H26	51%	0	0	0%	0%	C	70%	70%	引き続き防災啓発を継続し、次期防災計画更新資料及び防災備蓄物資計画及び防災訓練資料とするため、今年度は準備を進め、R02にアンケートを実施します。	総務課	31年アンケートは未実施となりますか。	C	

①黒滝村総合戦略(平成30年度進捗分)効果検証シート

節項番号	具体的施策	施策概要	重要事業評価指標(KPI)	基準値		H30実績値	H30目安値	H30進捗率(実績値/目安値)	全体の進捗率(実績値/R02目標値)	自己評価(ABC)	H31(R01)目標値	R02目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前質疑	評価A B C	評価に至った意見
				年度	数値										質疑内容		
2-8-3	災害時応急体制の整備	各機関・組織の連携体制を確立し、災害発生時に各機関・組織がそれぞれの役割をスムーズに担うことが可能となるような体制の構築を推進します。また、避難準備情報・避難勧告・避難指示へとスムーズに移行が可能となるよう基準を調査整備し、健全者から要配慮者までスムーズに避難が完了し避難生活ができる体制の構築を図ります。	防災行政無線等整備率	H27	100%	100%	100%	100%	100%	A	100%	100%	H29に各戸の戸別受信機を無線形式から有線形式に変更し、全戸整備を完了しました。引き続き、屋外拡声子局の有線化を実施します。なお、情報伝達体制の多重化として緊急速報の活用、衛星携帯電話の整備、移動系防災行政無線(消防系)の更新と配備箇所数増大を行い、災害時の確実な情報伝達に努めます。なお、今年度防災拠点施設の非常用発電機の整備を進めます。	総務課	災害時の伝達法として、無線との併用は必要ないのでしょうか。	A	
			災害時要援護者の個別支援計画	H27	0%	計画数1	計画数24	4%	4%	C	100%	100%	H29に要支援者避難支援プランを策定し、今年度に22人の個別支援計画を策定しました。引き続き、未策定者の計画策定に向けて協議を進め、計画内容の更新に努めます。	総務課 保健福祉課	担当課コメントで、全般として進捗の表現ですので課題等を盛り込んだ形の事業継続コメントにされてはどうか。	C	
2-8-4	安心して生活できる環境づくり	地域の防犯力の強化と高齢者・子どもをはじめ住民が安心して暮らせる地域づくり、犯罪の起こりにくい環境づくりのため、また、警察との連携、情報提供等被害解明にも役立てるため、防犯カメラを設置し犯罪を抑止します。	防犯カメラ設置箇所数	H27	0カ所	2カ所	3カ所	67%	67%	B	3カ所	3カ所	防災Wi-Fiのカメラを防犯用として計上しています。保守経費も必要であることから現状維持で進めます。	総務課		B	防犯カメラの増設検討を進めてはどうか。
			防犯カメラ表示板設置箇所数	H27	0カ所	4カ所	6カ所	67%	67%	B	6カ所	6カ所	防災Wi-Fiのカメラ設置場所の表示板数を計上しています。表示板数についても現状維持で進めます。	総務課		B	
			村内設置防犯灯(街灯)のLED灯化数	H27	0カ所	50カ所	52カ所	96%	50%	A	76カ所	100カ所更新	順次更新を進めます。	総務課		A	
2-9-1	豊かな自然環境の保護	災害で失われた山と川の環境を元の姿に戻し、黒滝村の豊かな自然生態系を守ります。	体験事業の開催	H27	0回	年2回	年2回	100%	67%	A	年1回	年3回	体験事業数やメニューの増加を検討します。(サマフェス木登り体験、源流体験会)	企画政策課・林業建設課		A	観光客向けの地域資源を活かした体験教室の開催を進めてください。
2-10-1	水道水の安定供給や施設の機能維持	水道水の安定供給の為、水道施設の適正な保守管理による延命化(特に鉛製給水管の敷設替え)を図り、安全な水道水を確保すると共に、飲水施設や簡水施設の統廃合などを行い、コストの低減を図ります。	有収率	H25	80.4	46.9	47	99%	63%	A	70	75	H29事業で中戸浄水場系統の漏水修繕を実施。H30-31事業で横尾浄水場系統の漏水修繕を実施しています。今年度事業により大幅に改善する予定です。赤滝浄水場系統については今年度改修計画を定め、有収率の回復に努めます。	林業建設課		A	
2-10-2	橋梁・トンネルの老朽化対策の推進	道路・橋梁・トンネルなど、インフラの老朽化に伴い、低いコストで安全性を確保できるよう、長期的視点に立った計画的・体系的な点検及び補修を実施します。	橋梁定期点検箇所数	H27	22橋	延べ89橋	延べ89橋	100%	100%	A	22橋 延べ89橋	22橋 延べ89橋	点検箇所数の再精査を行い、山中の木橋等を対象外として計画を変更し、89橋を目標値として再設定し、H30事業で完了しています。5年間の計画期間で新たに順次点検を実施します。	林業建設課		A	
			トンネル定期点検箇所数	H27	0カ所	3カ所	3カ所	100%	100%	A	3カ所	3カ所	H30事業において3カ所実施済みです。5年間の計画期間で新たに順次点検を実施します。	林業建設課		A	

①黒滝村総合戦略(平成30年度進捗分)効果検証シート

節項番号	具体的施策	施策概要	重要事業評価指標(KPI)	基準値		H30実績値	H30目安値	H30進捗率(実績値/目安値)	全体の進捗率(実績値/R02目標値)	自己評価(ABC)	H31(R01)目標値	R02目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前質疑	評価A B C	評価に至った意見
				年度	数値										質疑内容		
2-10-3	ごみ処理の安定・継続処理を確保するための施設整備	「3R推進(リデュース、リユース、リサイクル)」によるごみの減量と有効活用を図ります。	年間ごみ排出量	H26	135.98t	225t	211t	94%	94%	B	121.00t	211t	空家の片付けや観光客増加によりごみ排出量が増加。(推定45t、全体の20%。但し回収車両の関係上概算値。)ごみの分別徹底と減量啓発に努め、事業系一般廃棄物の収集費用について排出事業者と協議の上、値上げも含めた減量方法を検討します。今年度より資源ごみコンテナ回収モニター制度、粗大ごみの予約申込制度を開始しています。	住民生活課	コメントに記されている様に、一般家庭ごみと観光事業系ごみは施策の数値として区分する必要がないでしょうか。	B	資源ごみのリサイクル量の向上のため、ごみの出し方の啓発などをもっと地域で取り組むべきではないでしょうか。
2-10-4	合併浄化槽設置及び維持管理	今後も水質を保全するため、合併浄化槽の設置及び管理を行い、同時に老朽化している合併浄化槽の改修を行います。	合併処理浄化槽整備率	H27	83.8%	86.65%	85.00%	100%	100%	A	86.3%	87.0%	戸別328基、小規模集合3基を整備済み。人口減少に伴い整備箇所は減少していますが、引き続き整備を進め、水質保全に努めます。	林業建設課		A	
2-10-5	村営住宅の整備	移住定住と連携を図りながら、大規模造成ではなく自然の地形、環境に配慮した村営住宅の整備を推進します。	村営住宅整備	H27	28戸	33戸	33戸	100%	100%	A	33戸	33戸	長瀬村営住宅及び御吉野村営住宅の全面改修を来年度までに順次実施します。新たに単身者用の集合住宅の整備及び県道拡幅工事による立ち退き対象者への代替住宅の整備を検討します。	林業建設課		A	
2-11-1	過疎集落支援対策の推進	村民同士のコミュニケーションを図り、高齢者を支えていく地域コミュニティの形成を支援します。	地域づくり協議会の設置	H27	0団体	0	0	0%	0%	C	1団体	1団体	集落点検の結果を基に、今後は視察研修及び地区担当職員制度の創設等を通じて、地区との話し合いを重ね、地域の理解を得ながら、協議会の設立を目指します。	企画政策課		C	
			地域内サークルへの補助	H27	1団体	1団体	2団体	50%	33%	B	3団体	3団体	各地域のサロン等に保健福祉課と連携して協働を行います。	企画政策課		B	
			集落周辺の環境整備	H27	年間20カ所	71カ所	80カ所	89%	71%	B	合計90カ所	100カ所	地元要望も毎年一定数あり、効果も高いことから、今後も継続実施します。	林業建設課		B	
3-1-1	地域資源を活かした観光の振興	観光施設を観光拠点施設として位置づけ、自然とのふれあいの中で楽しむことができる滞在型の観光レクリエーションの場として入り込み客の増加を図ります。	新たな交流により増加する観光客入込客数	H27	年間92,000人	年間229,801人	年間116,000人	100%	100%	A	年間230,000人	年間230,000人	地域の魅力を伝える情報発信事業の展開を図ります。	企画政策課		A	観光客向けの地域資源を活かした体験教室の開催を進めてください。
			宿泊客数	H27	年間4,500人	年間12,405人	年間5,400人	100%	99%	A	年間12,500人	年間12,500人	地域の魅力を伝える情報発信事業の展開を図ります。	企画政策課		A	宿泊客向けの地域資源を活かした体験教室の開催を進めてください。
3-1-2	交流人口の拡大	村内交流人口の増をはじめ、新たな人の繋がりを拡大させます。	村内交流人口	H27	年間50人	延べ年間855人	延べ年間400人	100%	95%	A	延べ年間900人	延べ年間900人	国民文化祭・サマーフェスティバル・すずかけの道ツアー等を開催支援を行い、リポーター及び交流人口拡大に努めます。	企画政策課		A	
3-1-3	文化財の保護の推進	文化財の保全と保護に努めるとともに、住民と行政が一体となった保全活動の推進と情報発信を行い、保全機運を醸成します。	民俗資料館来館者数	H26	100人	500人	140人	100%	91%	A	550人	550人	たるまるカフェ・クリスマスイルミネーション等を開催し、併せて施設整備等を行い、来館者数増加に努めます。	教育委員会・企画政策課		A	
		仕事と住居をセットで提供し既存のコミュニティが維持できるよう人口増加を促進します。	移住・定住世帯数	H27	1世帯	22世帯	12世帯	100%	79%	A	25世帯	28世帯	村営住宅新設と地域おこし協力隊員が増加要因であることから、ニーズに応じた多様な住宅の整備を進めます。	企画政策課		A	

①黒滝村総合戦略(平成30年度進捗分)効果検証シート

節項番号	具体的施策	施策概要	重要事業評価指標(KPI)	基準値		H30実績値	H30目安値	H30進捗率(実績値/目安値)	全体の進捗率(実績値/R02目標値)	自己評価(ABC)	H31(R01)目標値	R02目標値	担当課コメント欄	担当課	外部有識者事前質疑	評価A B C	評価に至った意見	
				年度	数値										質疑内容			
3-2-1	移住・定住の促進	す。	仕事と住居を紹介するツアーの開催数	H27	0回	0回	0回	0%	0%	C	年間2回	年間2回	他市町村の先行事例を見ながら検討します。地域限定旅行者制度の導入も含めて検討を進めます。同時に魅力的な空き家の掘り起こしを進めます。	企画政策課	担当課コメントで、全般として進捗の表現ですので課題等を盛り込んだ形の事業継続コメントにされてはでしょうか。	C	地域限定旅行者制度の導入などを総合的に検討してください。	
			移住・定住の窓口となる団体数	H27	0団体	0団体	0団体	0%	0%	C	1団体	1団体				地域おこし協力隊や女子会等と協力して団体設立を目指しながら、村内事業者への業務委託も含めて検討を進めます。		C
			移住・定住の情報を発信した映像本数	H27	1本	8本	8本	100%	67%	A	10本	12本				林業従事の地域おこし協力隊員にスポットを当て、仕事と生活を紹介する映像の製作を進めています。(美しき日本1、(株)飛騨産業1、こまどりケーブル(株)1、地域おこし協力隊制作3、樽丸紹介1、吉野地域日本遺産協議会1)		A
3-2-2	空き家対策の推進	空き家台帳を整備し、所有者等に対し積極的な空き家情報バンクへの登録を呼びかけます。	空き家情報バンク登録数	H27	8戸	24戸	22戸	100%	86%	A	延べ25戸	延べ28戸	空き家セミナーや村広報紙等で周知を行い、空き家バンク制度の普及を図ります。また、空き家紹介ホームページについてもイメージ向上のため見直しを行います。空き家所有者と希望者間でのミスマッチ事例が多いことから、今後は仲介事業者との協力を進めます。	企画政策課	役場ホームページ掲載の空き家紹介の魅力化(ある程度美しい写真を掲載)をした方が良いと思えます。	A		
			体験住宅の整備数	H27	0戸	0戸	0戸	0%	0%	C	1戸	3戸	H31～R2事業で空き家改修を行い体験住宅3戸を整備する予定です。	企画政策課		C		
			移住者が集う場所の設置数	H27	0戸	0カ所	0カ所	0%	0%	C	1カ所	1カ所	H31事業によりわかすぎふれあいセンター内に「地域おこし協力隊の部屋」を整備済みです。今後は周知等に努めます。	企画政策課		C	移住者全体を対象とした集える場の設置を検討してください。	
														各施策の担当課コメントで、前回のコメントに見えて来ている課題を盛り込んだコメントをされている施策と、そうでない施策があるようですが、全般として進捗の表現です。課題等を盛り込んだ形の事業継続コメントにされてはでしょうか。(例えば1-1-1林業労働力の確保・育成、1-1-2生産性の高い林業の推進と山村の振興、1-2-1農業の振興、1-2-2商工業の振興、1-2-6女性の視点を活かした事業の推進、2-8-3-2災害時要援護者の個別支援計画、3-2-1-2仕事と住居を紹介するツアーの開催数)				

②地方創生交付金事業(平成30年度進捗分)効果検証シート

節項 番号	交付対象事 業の名称	施策概要	重要事業評価 指標 (KPI)	基準値		H30 実績値	H30 目安値	H30 進捗率 (実績値/目 安値)	全体 進捗率 (実績値/目 安値)	自己 評価 (ABC)	H31 (R01) 目標値	R02 目標値	担当課コメント欄 (前回記入分を修正してく ださい)	担当課	外部有識者事前質 疑	評価 A B C	評価に至った意見
				年度	数値										質疑内容		
1	平成27年度 地方創生加速 化交付金 「黒滝・森物 語村」を活用し た地域間交流・ 情報発信拠点 機能の充実・強 化事業	村の観光拠点である黒滝 森物語村において、村民 主導の情報発信を行うた めの体制を構築し、魅力あ るコンテンツを検討し、情 報発信する。 ・ホームページ開設(リ ニューアル) 2,000千円 ・情報発信スペースの整備 (壁面改修) 930千円 (平成28年5月末事業完 了)	観光客入込客 数	H26	92,000 人	年間 229,801 人	年間 116,000 人	100%	100%	A	年間 230,000人	年間 230,000 人	地域の魅力を伝える情報 発信事業の展開を図りま す。	企画政策 課		A	
			宿泊客数	H26	4,500人	年間 12,405 人	年間 5,400人	100%	100%	A	年間 12,500人	年間 12,500 人	地域の魅力を伝える情報 発信事業の展開を図りま す。	企画政策 課		A	
			株式会社黒滝 森物語村正社 員数	H26	7人	正19人 パ42人	7人	100%	95%	A	正20人	正20人	雇用の増加が移住定住 につながるよう住居の整 備に努めます。	企画政策 課		A	
2	平成29・30年 度 地方創生推進 交付金 「食」を通じた 地域活性化～ 黒滝わくもりプ ロジェクト～	村民中心で結成した食の 6次産業化プロジェクト チーム「ねえのごっつお」 が、黒滝白きゅうりを中心 とした季節野菜の特産品の 開発・普及から加工・販売 を手がけ、農業を中心とし た地域振興を目指します。 ・H29試験営業経費(賃 金)2,170千円(交付金 1,085千円、H29.6～ H30.3) ・H30本格営業経費(賃 金・活動助成)5,629,644円 (交付金2,814,822円)	6次産業事業売 上(千円)	H28	0	1,097千 円	1,700千 円	65%	27%	C	1,700千円	2,000千円	目標額に到達していない ことから、計画期間終了 後も支援を継続し、自立 化に向けた方向性の修正 も検討します。	企画政策 課	プロジェクト全体として、 採算ベースの課題が有る 様に思いますが、コメント の中に盛り込む必要はない でしょうか。	C	自立化に向けて経費や販 路等の見直しを行い、補 助金なしでも事業が継続 できるように事業全体の 見直しを進めてください。
			黒滝白きゅうり 生産量(t)	H28	0.6t	2.9t	3.6t	81%	58%	B	4.8t	5.0t	今後も事業の進捗管理を 行います	企画政策 課		B	
			黒滝白きゅうり 生産農家(戸)	H28	41戸	45戸	45戸	100%	98%	A	46戸	46戸	H30年5月末現在45戸で す。H31年度での目標達 成を目指して、普及拡大 に努めます。	企画政策 課		A	
3	平成30年度 地方創生拠点 整備交付金 生産性革命 に資する6次産 業拠点施設整 備事業～黒滝 わくもりプロジェ クト～	空き校舎となった旧中学 校1階部分を6次産業拠点 施設として整備し、生産効 率の向上と高付加価値化 を図り、販路の拡大と自立 化につなげ、地域経済の 好循環の実現を目指す。 ・6次産業拠点施設整備事 業(施設整備工事) 98,384,760円(交付金 42,150,720円) ・(備品購入)11,464,200円 (交付金5,148,727円)	整備施設での6 次産業事業売 上(千円)	H29	0	0	0	0%	0%	—	1,700千円	2,000千円	今後も事業の進捗管理を 行います	企画政策 課		—	
			整備施設での 食品加工品目 数	H29	0	0	0	0%	0%	—	1品目	3品目	今後も事業の進捗管理を 行います	企画政策 課		—	
			整備施設での 雇用人数	H29	0	0	0	0%	0%	—	0	1人	今後も事業の進捗管理を 行います	企画政策 課		—	

黒滝村総合戦略（平成30年度分）等の効果検証会議

議事録

日 時	令和元年9月18日（水） 13:30～15:00
場 所	黒滝村役場 2階会議室
出席委員	中前政明会長、近藤美智雄副会長、岡山正博委員、上岡史和委員（代理）、大和里美委員、脇阪武男委員、岡田龍子委員、亀井隆平委員、大澤和重委員（オブザーバー） ※欠席 中井龍彦委員
事務局	辻村源四郎村長、上浦豊副村長、前田斉企画政策課長、山部直華企画政策課課長補佐、浦南辰浩企画政策課係長
次 第	・村長挨拶 ・会長挨拶 ・案件 ①黒滝村総合戦略の効果検証について ②地方創生交付金の効果検証について ③その他 令和元年度地方創生交付金の報告について

- ・ 村長挨拶
- ・ 会長挨拶
- ・ 委員紹介
- ・ 議事録署名員の選出 → 会長指名により脇坂委員、岡田委員を選出
- ・ 案件
 - ① 黒滝村総合戦略の効果検証について
 - ② 地方創生交付金の効果検証について
→ 一括審議、資料に基づき事務局より説明（自己評価Cの10事業を中心に説明）
 - ③ その他 令和元年度地方創生交付金事業の報告について

【大澤委員】

「1-1-1 林業労働力の確保・育成」と「1-2-2 商工業の振興」について、表現の問題かと思われませんが、「採用面接において家庭事情のヒアリングも重視する」というのは問題かと思われま。家庭事情を合否の判定に入れるのは問題であるので、「継続的に仕事が続けられるか聞き取りを行う」という表現に修正してもらってはどうか。

【中前会長】

表現の問題ということですね。

【事務局】

ご指摘ありがとうございます。修正させていただきます。

【大和委員】

「3-2-2 空家対策の推進」の「移住者が集う場所の設置数」について、「地域おこし協力隊の部屋を整備」として記載されており、少し違和感を感じたのですが、地域おこし協力隊だけを対象としてやるのではなく、もっと広く、それ以外でも移住者同士がネットワークを作るというのは、定住のためにも重要なことなので、移住されてくる人全体を対象として、「移住者の部屋」など名称を変更して、広く受け入れる方向にした方がいいのではないのでしょうか

【中前会長】

「移住者」を地域おこし協力隊だけに限定せずにもっと広く見てください、ということですね。

【大和委員】

地域おこし協力隊も3年の任期が終わっても集える場があった方がいいとは思いますが。

【事務局】

検討させていただきます。

【亀井委員】

「2-1-4 子育て世代への支援の充実」について、大きく目標値を見直しているのですが、これは何か原因があつてのことですか。

【事務局】

資料説明が漏れており申し訳ありません。外部有識者事前質疑で目標値と実績に大きな差があることについてご指摘をいただき、目標値の見直しとコメント欄の修正を行っております。現状としては少子化による対象者の減少と一時利用から通園者への移行に伴い実績数が減少している状況です。別紙の③資料の17ページをご覧ください。利用者数と通園者数の年度別推移を記載しております。一時利用の利用者数は減少していますが、通園者はほぼ横ばいで推移している状況です。受け入れ体制としては、全ての利用申請に対応可能な体制を整備済みで、一時預かりの柔軟対応や研修等を通じて職員のスキルアップを図り、今後も募集PRを継続します。

【亀井委員】

「2-10-3 ごみ処理の安定・継続処理を確保するための施設整備」について、「観光事業ごみ改修費用の値上げも含めて検討します」とありますが、料金は一般家庭と同じということですか。

【事務局】

分別区分は家庭ごみと同じですが、事業系ごみシールを袋ごとに貼ってもらっており、1枚50円を負担してもらっています。値上げをすることにより減量に努めてもらおうということです。

【中前会長】

人口が減っているのにゴミだけ増えている。理由には空き家の片付けゴミが粗大ゴミとなって大量に出ている場合があるので、予約制ということで、以前に区長会でも説明があつたが、事前に家まで行って粗大ごみの確認をさせてもらうということですね。

【亀井委員】

そうすると、言っている話かどうかわかりませんが、純粋な家庭ごみや事業系ごみではないということですね。

【事務局】

村だけでなく組合でそういったごみも排出事業者と協議の上、回収している状況です。

【亀井委員】

そうすると、この表現は修正したほうがいいかもしれませんね。書き方が難しいですが、事業系ごみも一緒に回収していると書いてしまうと法に触れる可能性がある。

【事務局】

法の規定の範囲内で回収しているはずですが。

【辻村村長】

黒滝村で一番増えているのが粗大ゴミです。昨年ぐらいから大きく増えており、理由としては空き家の片付けごみを粗大ゴミとして排出される人が多く、1回の収集で回収できない量を排出される場合もあり、現在は予約制ということで事前に回収量を取り決めた上で収集に回るという方法をとっています。また、資源ゴミについてもカン・ビンについては、樫原市の例を参考にして、コンテナに入れてもらって回収する方法をモニター制度ということで実験的にやっているところです。

【中前会長】

コンテナに入れても減量にはつながらないと思うのですが。袋がコンテナに変わるだけで。

【辻村村長】

コンテナにすることでカン・ビンをきれいに洗ってキャップを外してくれる量が増える効果があり、リサイクル量の向上につながっています。ただし、洗浄をしてくれない人もかなりいるみたいですが。

【中前会長】

そういったごみの出し方の啓発などはもっと区長会でも提案してはどうでしょうか。地域で取り組むべき話だとは思いますが。

【岡山委員】

「2-8-4 安心して生活できる環境づくり」の村内防犯灯のLED灯火数ですが、現在50箇所が終了、令和2年度で100箇所を目標としているということは、まだかなりの数が残っているということだと思います。村の施策は地区のLED化要望に対しての交換補助なのか、

球切れしている箇所ごとの LED 化交換なのか、黒滝村の方法を教えてください。

【事務局】

昨年も同様の質疑を頂いたのですが、満足の行く回答に至らなかった点、また、コメント欄の説明不足な点は申し訳なかったと思います。改めて説明いたしますと、目標値 100 箇所は集落と集落の間の公費負担の防犯灯交換予定件数です。これを年 25 基交換して 4 年間かけて事業を進めようという計画です。集落内の防犯灯は地区負担であり、今回の目標値では対象外となっていますが、平成 28 年度より補助要綱を新設し、世帯割り等の交付上限を設けて地区要望に答える形をとっています。全体で 12 地区のうち 6 地区に補助を行っているところで、1 基あたり 15,000 円の補助ですが、地区の世帯割等で上限金額が設定されており、費用負担の問題で躊躇される地区もあると伺っています。また、新たに補助対象を過去に設置した地区も対象にしようということで制度拡大を進めているところです。

【岡山委員】

地区と地区の間は公費負担ということですが、どういうことでしょうか。地区はそれぞれつながっているものですが。

【中前会長】

大字から大字に移動する際に民家がない箇所があるかと思います。その部分は村が負担するということです。通学路の安全性を確保する意味から、民家がなくても防犯灯を設置するというのと、その管理は大字ではなく村にさせていただくということです。地区要望の補助はおよそ 3 分の 1 が地元負担となっている状況です。

【岡山委員】

こちらの地域の事情はよくわかりました。補助額もかなりいい額だと思います。

【辻村村長】

村の補助要綱は平成 28 年度から平成 30 年度まででしたが、それ以前にも数地区で先行して LED 化されている地区もあり、既設地区へも同様に補助の要望があったことから、今年から既設地区へも資料検証の上、補助を行う予定です。

【中前会長】

防犯灯よりも防犯カメラの方が今の時代は気になります。目標値 3 箇所というのは、防災 WiFi のカメラのことを指すのですか。

【事務局】

防犯と防災を兼用して運用しています。

【協阪委員】

防犯カメラはいくらぐらいしますか。

【事務局】

家庭用でしたら数千円から販売されていますが、目的や用途によってシステム化されて費用が高くなります。防災 WiFi の場合は気象計も付帯して 4,000 万円弱の事業費で平成 28 年度に整備しており、カメラ単価は 30 万円前後だったかと思われます。

【辻村村長】

村としては純粋な用途での防犯カメラというのは観光施設や学校等の施設以外では今の所ありません。範囲が広すぎるのがありますが、そういったところにまで手が回っていません。

【大和委員】

8 ページの 1 平成 27 年度地方創生推進交付金事業のコメントですが、「観光客の増加が移住者の増加につながるよう…」とありますが、観光客や宿泊者を増やすことと移住者を増やすことは別の問題で、目的が違いますので一緒に考えるのではなく、宿泊者を増やすのなら黒滝村の夜や朝の素晴らしい風景を情報発信するなど、イベントをするでもいいのですが、お客様を増やすためにどうするかを書いたほうがいいと思います。

【事務局】

はい、参考にさせていただきます。

【大和委員】

もう一点ですが、「3-2-1 仕事と住居を紹介するツアーの開催数」の項目のコメントで、「旅行取扱主任者が必要なため協力事業者が必要となること…」とありますが、現在 JTB や近畿日本ツーリストなど大手旅行業者とそういうツアーの話を進めている案件はあるのですか？

【事務局】

今の所、具体的にはありません。

【大和委員】

観光に関しては今からということですので、情報として知っておいてほしいのですが、平成30年に法整備により地域限定旅行業者の制度が始まっており、今までより登録のハードルが低くなっていますので、将来的に観光に取り組みれるのであれば、最初は100万円ぐらい必要だったと思うのですが、黒滝村の村内のツアーに関しては提携しなくても自分達で体制を作ることができれば販売もできますので、そういった制度の変更も考慮して検討されたほうが、最終的には村のためにもいいと思います。

【事務局】

必ずしも委託しなくても良いということですね。

【大和委員】

ただし、最初は旅行取扱主任者を置かなければなりませんので、何らかの方法で有資格者が必要となります。大手の旅行会社は集客力がありますが、かなりシビアに利益計算をされますので、そういったことを総合的に考えられて検討されたほうがいいと思います。

【事務局】

はい、参考にさせていただきます。

【中前会長】

他に意見・質疑がなければ、外部有識者の評価及び意見を取りまとめてくださいということですが、事務局からの説明を求めます。

【事務局】

別紙の検証要領をご確認ください。(別紙③検証要領の説明、省略)

【中前会長】

評価については、事務局側で今までの皆さんの意見を参考にして付けてはどうでしょうか。評価に至った意見についても、先ほどの各委員の意見を事務局で取りまとめて記載ということにしないと、たくさん項目を一つ一つ評価していくと時間がなくなるので。意見のなかった項目についてはご承認いただいたということで理解して進めていただければよいのではないのでしょうか。

(異議なしの声)

異議なしといただきましたので、そのように進めさせていただきます。

事務局に次の案件の令和元年度地方創生交付金事業の報告を求めます。

【事務局】

別紙の資料をご確認ください。(別紙④資料の説明、省略)

【中前会長】

白きゅうりもこの事業の中に入っているのですか。3カ年継続してやってきているのですか。

【事務局】

白きゅうりのブランド化の事業として位置づけており、3年計画の3年目ということで交付金をいただきながら進めています。

【岡山委員】

白きゅうりの収穫は7月頃でしょうか。隣の天川村のイチゴ栽培の取り組みもメディアに取り上げられて盛り上がっていますし、収穫時期に取材させてもらいたいと考えています。

【中前会長】

以前にも何度かテレビでも取り上げられていますね。大和野菜として認定されたときには知事にもひね漬けを食べていただいたと思いますが。ぜひ取材していただければと思います。ただ白きゅうりは販売価格が高いと思います。

【岡田委員】

高齢者の生きがいがづくりという面で取り組まれた経緯もあったともいますが、一本あたり30円の買い取り価格は高すぎると思います。私も生産者として参加したのですが、生産者としてはうれしい買い取り価格ですが、買い手として考えたときに買える価格ではなく割高に感じると思います。

【中前会長】

原材料費が高いので、当然販売価格が高くなり、売れ行きが悪くなるという悪循環かと思っています。

【岡田委員】

それと、黒滝森物語村では取り扱いをしていただけないと聞いています。なぜかと聞くと、交渉に行っても断られたとのことで、村が奨励して生産しているのに、村が出資する黒滝森物語村が協力してくれないというのはおかしいと思います。黒滝森物語村での食事の付け合わせに、白きゅうりを出して、食べて頂いた後にお土産として買ってもらうのが良い流れだと思うのですが、食べて初めておいしいと思う商品ですし、道の駅に置

いてるだけでは売れにくいと思います。

先日、黒滝森物語村で食事した際は普通の青きゅうりが出て来ましたので、白きゅうりが出てこないことと、こうやって村が生産奨励していることに違和感を感じました。

【中前会長】

ホテルや旅館の食事では、その施設の売りの一品がお茶菓子や食事に入っており、売店で同じものを販売していることが多いですね。

【岡田委員】

委託販売だけでなくホテルの買い取りでも売上を支えることができますが、黒滝森物語村では取り扱いしてくれないという声を聞いています。

【中前会長】

黒滝森物語村でも白きゅうりを生産しているからではないでしょうか。そうやって単独でやってしまっただけが続かないということがよくあります。補助金のあるときだけ事業をして、補助がなくなると続かないということを繰り返してきていますので、この取り組みも継続してもらえるような体制をもう少し考えてもらいたい。

【亀井委員】

コメント欄にあるように、自立化に向けてどう取り組むかです。補助ありきでは難しいと思います。

【中前会長】

補助金がなくなっても、もっと自分たちで営業して、村にバックアップを依頼していくような雰囲気がないと。補助金が当たり前についている状態では、補助がなくなったら終了となってしまう。

【亀井委員】

支出経費と売上額が全く合っていない状態ですので、自立化に向けて、買い取り価格についても販路についても見直しが必要かと思います。黒滝森物語村は収益面で見ているので、その辺が合わないと思います。事業全体で見てもう少し見直しを進めてもらってはどうか。

【岡田委員】

地域特産品のことですが、先日、地域おこし協力隊の方が木の折り紙教室を開いてくださって、参加させてもらったのですが、折り紙の前に林業の話をしてくださって、私達も長

い間、黒滝村で生活しているのですが、関わりがないと吉野杉のこととかよくわかってなかったのが本当に勉強になったし、木の折り紙なら賞味期限もなく黒滝村らしさを活かせるのではないかと、川上村で製作されていて高価であるとのことですが、腐るものではないのならそういった技術を黒滝村でも製作できないものかと思いました。

また、黒滝森物語村の宿泊者に折り紙教室などで体験ができないものかと、そうすればお土産等の購入やリピーターにもつながると思いました。

【大和委員】

木を活用したものということで、石川県では木のカバンを作る会社があります。結構高くて5万円以上したと思うのですが、先程の白きゅうりについても値段の話が出ていたのですが、ブランド価値を上げれば1本30円でも大丈夫だと思うのです。ただし、お漬物では難しいと思うので、加工することで価値を載せていくという方法で、安いと価値が出ないので高く設定するという方法で。吉野杉はブランドなので値段を下げられないと同じ理屈です。いい商品さえ作れば高くで売れますし、村の規模から言っても、大量に安く生産して儲けようというのは現実的でないと思います。質を上げて少しのものを高く売って利益を取るということをして、「黒滝ブランド」というものを作り上げることができればいいのですが、一番悩ましいのは「誰がするのか」ということだと思います。継続的にやっていくためにはNPOや地域商社などの組織で誰かが中心となって引っ張っていかないと、継続させることが難しいのではないかと、そのためには誰がするのかということで、人がいないのが難しいところだと、外から見ていて感じました。ただ、村としてすごくいいものを持っているので、やり方によってはいくらかでも利益を上げられると思いますが、人口が減ることがやはり影響しているのかなと思います。

【脇阪委員】

白きゅうりの取り組みについて、私は悪いとは思いません。若い人は中々食べてくれませんが、年配の人や特に村から離れた人たちが懐かしがって食べてくれることを見聞きするので、何とか続けてほしいと思います。

また、特産品ということで「透かし彫り」をもっと広げてほしいと思います。他にやっているところは見当たりませんし、安倍首相にも献上していますので、黒滝村で一番の特産品にできると思います。

【中前会長】

高いものだけでなく小さいものでも、黒滝森物語村の宿泊者向けの体験ができればいいと思うのですが。私の家内も草木染めの事業をしており、体験教室も開いています。体験すればその面白さがわかり、商品の販売にも繋がります。値段も安いので手に取りやすく、百貨店等で販売すればもっと高く売れると話す方もいらっしゃいますが、道の駅で販

売しても中々売れないのが現状です。

【岡山委員】

色々とユニークなことをされていて知らなかったのので、教えていただきたいのですが、「透かし彫り」は工芸品になるのですか。

【脇阪委員】

吉野杉の板材に下絵を書き、冬目を残して夏目を空気で砂を飛ばして削り絵を描く工芸です。サンドブラスターという特殊な機械で作ります。下絵にもセンスが要りますが、いいものだと思いますので、もっと売れるように押してもらいたいです。安倍首相にも絵やネームプレートを献上して、その時の写真が新聞にも掲載されたこともあります。

【中前会長】

他に何か質疑ありませんか。ないようでしたら、これにより会議を閉会させていただきます。スムーズな議事進行にご協力いただきありがとうございました。年に1回の開催となっていますが、今後も村の育成等にご協力いただきたく、それぞれのお立場でご協力をお願いいたします。本日はありがとうございました。

(閉会)